

# 高次脳機能障害に特化

## 初の通所リハ施設開所

高次脳機能障害に特化した通所型リハビリ施設「リハステーションゆす」の開所式が23日、鹿児島市錦江町であった。家族会からの要請を受け、県社会福祉事業団（森秀樹理事長）が整備した。在宅の高次脳機能障害者を主な対象にした施設は県内で初めて。



テープカットして「リハステーションゆす」の開所を祝う関係者ら  
 23日、鹿児島市

### 専門訓練で社会復帰支援

鹿児島市錦江

高次脳機能障害は、事故や病気などで脳にダメージを受け、記憶や判断力が低下する障害。社会復帰には特別なリハビリプログラムが必要とされ、特に退院後の専門リハビリ施設整備が課題となっていた。

施設は広さ362平方メートル。作業室、グループワーク室などを備えており、職員9人が認知・言語リハビリテーションや社会生活技能訓練、就労準備訓練にあたる。訓練時間は午前10時〜午後3時半で、既に4人が利用しているという。

森理事長は開所式で「利用者一人一人の状態に的確に対応した支援を提供していきたい」とあいさつ。当事者、家族らでつくる高次脳機能障害「ぶらむ」鹿児島市の川畑良寛代表は「待ち望んでいた施設。ニーズに合った訓練ができるので、よりスムーズな社会復帰につながると思う」と話した。

リハステーションゆす 09(295)0415。

(三宅太郎)

### 特定健診受診 街頭呼びかけ 国保団体連合会

鹿児島県国民健康保険団体連合会は22日、鹿児島市の中町ベルク通りで特定健診の受診を呼びかけた。県のキヤラクター「ぐりぐり」と連合会の「けんこう坊や」とともにチラシを配布した。

特定健診は40〜74歳の健康保険加入者を対象に、メタボリック（内臓脂肪）症候群に着目した健診。自分の健康状態を知り、生活習慣

病の未然防止につなげてもらう。

国は市町村の国民健康保険加入者の受診率60%を目標に掲げたが、14年度の県内受診率は42.3%にとどまる。

連合会保健師の新原洋子さん(59)は「メタボは自覚症状がないため、検査をしなければわからない。気づいたら生活習慣病になってしまったということのないように、年に1回は必ず受診してほしい」と呼びかけた。

(中村直人)



特定健診受診を呼びかける国民健康保険団体連合会の職員  
 22日、鹿児島市